

2020年度夏季手当	
基準内賃金の 2.4ヶ月+5,000円	
※各種平均は2020年5月1日現在	
支給日	6月29日(月)以降 準備出来次第
平均支給額	812,700円 (対前年△71,300円)
平均基準内賃金	336,535円 (対前年△1,663円)
支給対象社員数	51,200人 (対前年△1,600人)
平均年齢	39.8歳 (対前年△0.8歳)

私たち鉄道の労働者はエッセンシャル・ワーカーである、



えっ!?

基準内賃金の
2.4ヶ月
+
5,000円

要結も満額ならず

2020年度夏季手当

しかもコロナ禍の奮闘を0.1という率で
応えるって...

という議論を深めていた矢先のことだ。6月10日、会社より2020年度夏季手当の回答が提示された。要求を大きく下回る回答に、多くの組合員は落胆するとともに悔しさを滲ませた。

新型コロナウイルス感染症拡大の不安と向き合いながら、奮闘してきた働く全ての仲間への報いに会社は応えてくれたように見えるが、その内容は一律ではなく定率。会社と私たち労働者の問題意識の差は、こうした数値に表れる結果となった。

職場からは怒りの声が多数

今回の会社回答に納得していないのは、知恵を出し合って奮闘してきた仲間の声にも表れている。エッセンシャル・ワーカーとして日々鉄道を支え続けてきたにもかかわらず、それに相応する報いを求める声を、多くのJTSU-E組合員が聞いている。

「会社に下手に出すぎたんじゃないのか？」
「ワンサイドゲーム。」
「社員にムキしか与えないのか！」
「私たちも我慢しろと？ ヒドいよ。」
…と、口を開けば怒りの声ばかりだ。

悔しさをバネに議論を深めよう

もちろん夏季手当が支給されて満足という人もいる。だが、労使間の意識の乖離という課題を忘れてはならないし、かと言ってそればかり目立たせている場合でもない。

JTSU-Eは妥結にあたり、誰一人不幸にさせないために、JR東日本グループで働く全ての労働者の雇用と生命を守ることを労使共通認識として確認している。皆さんが持つ悔しさをバネに、この先の雇用を守るため、それぞれの職場から次を見据えた議論を興そう！

各々が持つ悔しさをバネに、いま一番労働者の声を会社に届ける JTSU-E へ結集しよう！